

高等学校 令和7年度（4学年用）教科

国語

科目 論理国語

教科：国語

科目：論理国語

単位数：2 単位

対象学年組：第 4 学年 A 組～ C 組

教科担当者：（A組： 保倉 ）（C組： 保倉 ）

使用教科書：（ 大修館書店『論理国語』 ）

教科 国語 の目標：

- 【知識及び技能】生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。
- 【思考力、判断力、表現力等】生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を伸ばす。
- 【学びに向かう力、人間性等】言葉のもつ価値への認識を深めるとともに、言語感覚を磨き、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、生涯にわたり国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

科目 論理国語 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
現代文のさまざまな文章に触れ、言語感覚を磨き、言語と文化の関係を理解する。	文章読解を通して適切かつ効果的に表現する能力を育成し、思考力や想像力を伸ばす。	身につけた知識や思考力を用いて進んで表現することによって社会生活の充実を図る。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域			評価規準	知	思	学	配 当 時 数
			話・聞	書	読					
1 学 期	A 単元 日本語の多様性 【知識及び技能】 現代文のさまざまな文章に触れ、言語感覚を磨き、言語と文化の関係を理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 文章読解を通して適切かつ効果的に表現する能力を育成し、思考力や想像力を伸ばす。 【学びに向かう力、人間性等】 身につけた知識や思考力を用いて進んで表現することによって社会生活の充実を図る。	・指導事項 話すこと・聞くこと、書くこと、読むこと ・教材 「方言コスプレ」現象 ・一人1台端末の活用 等	○	○	○	【知識及び技能】 現代文のさまざまな文章に触れ、言語感覚を磨き、言語と文化の関係を理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 文章読解を通して適切かつ効果的に表現する能力を育成し、思考力や想像力を伸ばしている。 【学びに向かう力、人間性等】 身につけた知識や思考力を用いて進んで表現することによって社会生活の充実を図ろうとしている。	○	○	○	12
	定期考査						○	○	○	1
	B単元 自己と他者 【知識及び技能】 現代文のさまざまな文章に触れ、言語感覚を磨き、言語と文化の関係を理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 文章読解を通して適切かつ効果的に表現する能力を育成し、思考力や想像力を伸ばす。 【学びに向かう力、人間性等】 身につけた知識や思考力を用いて進んで表現することによって社会生活の充実を図る。	・指導事項 話すこと・聞くこと、書くこと、読むこと ・教材 「贈り物」としてのノブレス・オブリージュ ・一人1台端末の活用 等	○	○	○	【知識及び技能】 現代文のさまざまな文章に触れ、言語感覚を磨き、言語と文化の関係を理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 文章読解を通して適切かつ効果的に表現する能力を育成し、思考力や想像力を伸ばしている。 【学びに向かう力、人間性等】 身につけた知識や思考力を用いて進んで表現することによって社会生活の充実を図ろうとしている。	○	○	○	13
	定期考査						○	○	○	1

2 学 期	C单元 自己と他者 【知識及び技能】 現代文のさまざまな文章に触れ、言語感覚を磨き、言語と文化の関係を理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 文章読解を通して適切かつ効果的に表現する能力を育成し、思考力や想像力を伸ばす。 【学びに向かう力、人間性等】 身につけた知識や思考力を用いて進んで表現することによって社会生活の充実を図る。	・指導事項 話すこと・聞くこと、書くこと、読むこと ・教材 人はなぜ贈与するのか ・一人1台端末の活用 等	○	○	○	【知識及び技能】 現代文のさまざまな文章に触れ、言語感覚を磨き、言語と文化の関係を理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 文章読解を通して適切かつ効果的に表現する能力を育成し、思考力や想像力を伸ばしている。 【学びに向かう力、人間性等】 身につけた知識や思考力を用いて進んで表現することによって社会生活の充実を図ろうとしている。	○	○	○	14
	定期考査						○	○	○	1
	D单元 コミュニケーションの手段 【知識及び技能】 現代文のさまざまな文章に触れ、言語感覚を磨き、言語と文化の関係を理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 文章読解を通して適切かつ効果的に表現する能力を育成し、思考力や想像力を伸ばす。 【学びに向かう力、人間性等】 身につけた知識や思考力を用いて進んで表現することによって社会生活の充実を図る。	・指導事項 話すこと・聞くこと、書くこと、読むこと ・教材 ネットワーク上のコミュニケーション ・一人1台端末の活用 等	○	○	○	【知識及び技能】 現代文のさまざまな文章に触れ、言語感覚を磨き、言語と文化の関係を理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 文章読解を通して適切かつ効果的に表現する能力を育成し、思考力や想像力を伸ばしている。 【学びに向かう力、人間性等】 身につけた知識や思考力を用いて進んで表現することによって社会生活の充実を図ろうとしている。	○	○	○	17
	定期考査						○	○	○	1
3 学 期	E单元 政治と社会 【知識及び技能】 現代文のさまざまな文章に触れ、言語感覚を磨き、言語と文化の関係を理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 文章読解を通して適切かつ効果的に表現する能力を育成し、思考力や想像力を伸ばす。 【学びに向かう力、人間性等】 身につけた知識や思考力を用いて進んで表現することによって社会生活の充実を図る。	・指導事項 話すこと・聞くこと、書くこと、読むこと ・教材 多数決を疑う ・一人1台端末の活用 等	○	○	○	【知識及び技能】 現代文のさまざまな文章に触れ、言語感覚を磨き、言語と文化の関係を理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 文章読解を通して適切かつ効果的に表現する能力を育成し、思考力や想像力を伸ばしている。 【学びに向かう力、人間性等】 身につけた知識や思考力を用いて進んで表現することによって社会生活の充実を図ろうとしている。	○	○	○	17
	定期考査						○	○	○	1
計									78	

高等学校 令和7年度（4学年用） 教科 地理歴史 科目 地歴考究

教 科： 地理歴史 科 目： 地歴考究 単位数： 2 単位

対象学年組：第 4 学年 A 組 C 組

教科担当者： 志賀尚司

使用教科書：（ 歴史総合 近代から現代へ 山川出版社 ・ 高校生の地理総合 帝国書院 ）

教科 地理歴史

【知 識 及 び 技 能】世界と日本について、地勢と地勢から展開する歴史を、総合的にとらえて基礎的知見を得る。

【思考力、判断力、表現力等】上記で獲得した基礎的知見を、世界と日本について、地勢と地勢から展開する歴史を、多面的・多角的に考察する。

【学びに向かう力、人間性等】上記をふまえて、現代に通暁する諸課題を認識し、自身の問題として自覚化する。

科目 地歴考究の目標

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
世界と日本について、地勢と地勢から展開する歴史を、総合的にとらえて基礎的知見を得る。	左記で獲得した基礎的知見を、世界と日本について、地勢と地勢から展開する歴史を、多面的・多角的に考察する。	左記をふまえて、現代に通暁する諸課題を認識し、自身の問題として自覚化する。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	学	配当 時数
1 学 期	A単元「日本近代国家の地政学」 【知識及び技能】 日本の地理的位置と開国・対外進出等について歴史的展開の基礎的知識を把持していく。 【思考力・判断力・表現力等】 日本の地勢と地政学から、近代日本の東アジアにおける「立ち位置」について考察する。 【学びに向かう力、人間性等】 上記で得られた課題を自覚化する。	・指導事項 近代日本の形成	【知識・技能】 なぜ幕末に日本の開国は焦点化するのか、そしてその後の近代化過程について基礎的な知識を獲得し得たか。 【思考・判断・表現】 日本の開国・近代化過程を立体的に考察し得たか。 【学びに向かう力、人間性等】 上記で得られた課題を自覚化し得たか。	○	○	○	8
	A単元「日本近代国家と人物」 【知識及び技能】 日本近代国家形成における人物の動向について基礎的知識を把握していく。 【思考力・判断力・表現力等】 日本近代国家形成における歴史上の人物の選択と決断について多角的・多面的に考察する。 【学びに向かう力、人間性等】 上記で得られた課題を自覚化する。	・指導事項 近代日本の形成と人物	【知識及び技能】 日本近代国家形成における人物の動向について基礎的知識を把握し得たか。 【思考力・判断力・表現力等】 日本近代国家形成における歴史上の人物の選択と決断について多角的・多面的に考察し得たか。 【学びに向かう力、人間性等】 上記で得られた課題を自覚化し得たか。	○	○	○	6
	到達度テスト			○	○	○	1
	B単元「日本現代史の展開」 【知識及び技能】 日本現代史の展開を日本の地理的位置や国際環境をふまえて把握していく。 【思考力・判断力・表現力等】 日本現代史の展開を多角的・多面的に考察する。 【学びに向かう力、人間性等】 上記の課題を自覚化する。	・指導事項 日本現代史の展開	【知識・技能】 日本現代史の展開を日本の地理的位置や国際環境をふまえて把握し得たか。 【思考・判断・表現】 日本現代史の展開を多角的・多面的に考察し得たか。 【学びに向かう力、人間性等】 上記の課題を自覚化し得たか。	○	○	○	7
	B単元「日本現代史と人物」 【知識及び技能】 日本現代史の展開上の人物の判断・選択・決断の状況を把持していく。 【思考力・判断力・表現力等】 日本現代史の展開上の人物の判断・選択・決断の状況を多角的・多面的に考察する。 【学びに向かう力、人間性等】 上記の課題を自覚化する。	・指導事項 「日本現代史の人物」	【知識・技能】 日本現代史の展開上の人物の判断・選択・決断の状況を把握し得たか。 【思考・判断・表現】 日本現代史の展開上の状況を多角的・立体的に考察し得たか。 【学びに向かう力、人間性等】 上記の課題を自覚化し得たか。	○	○	○	5
2 学 期	C単元「日本前近代史の展開」 【知識及び技能】 日本古代・中世史の展開を、地勢・地政学をふまえて把握していく。 【思考力・判断力・表現力等】 日本古代・中世史の展開を多角的・多面的に考察する。 【学びに向かう力、人間性等】 上記の課題を自覚化する。	・指導事項 「日本前近代史の展開」	【知識・技能】 日本古代・中世史の展開を、地勢・地政学をふまえてを把持し得たか。 【思考・判断・表現】 日本古代・中世史の展開を多角的・立体的に考察し得たか。 【学びに向かう力、人間性等】 上記の課題を自覚化し得たか。	○	○	○	9
	C単元「日本前近代史と人物」 【知識及び技能】 日本古代・中世史上の人物の判断・選択・決断を把持していく。 【思考力・判断力・表現力等】 日本古代・中世史上の人物の判断・選択・決断を多角的・多面的に考察する。 【学びに向かう力、人間性等】 上記の課題を自覚化する。	・指導事項 日本前近代史と人物	【知識・技能】 日本古代・中世史上の人物の判断・選択・決断を把握し得たか。 【思考・判断・表現】 日本古代・中世史上の人物の判断・選択・決断を多角的・立体的に考察し得たか。 【学びに向かう力、人間性等】 上記の課題を自覚化し得たか。	○	○	○	7
	到達度テスト			○	○	○	1

	D単元「日本前近代史の展開」 【知識及び技能】 日本近世史の展開を地勢・地政学をふまえて把持していく。 【思考力・判断力・表現力等】 日本近世史の展開を地勢・地政学をふまえて多角的・多面的に考察する。 【学びに向かう力、人間性等】 上記の課題を自覚化する。	・指導事項 日本近世史の展開	【知識・技能】 日本近世史の展開を地勢・地政学をふまえて把持し得たか。 【思考・判断・表現】 日本近世史の展開を地勢・地政学をふまえて多角的・立体的に考察し得たか。 【学びに向かう力、人間性等】 上記の課題を自覚化し得たか。	○	○	○	9
	D単元「日本近世史と人物」 【知識及び技能】 日本近世史上の人物の判断・選択・決断を把持していく。 【思考力・判断力・表現力等】 日本近世史上の人物の判断・選択・決断を多角的・多面的に考察する。 【学びに向かう力、人間性等】 上記の課題を自覚化する。	・指導事項 日本近世史の人物	【知識・技能】 日本近世史上の人物の判断・選択・決断を把握し得たか。 【思考・判断・表現】 日本近世史上の人物の判断・選択・決断を多角的・立体的に考察し得たか。 【学びに向かう力、人間性等】 上記の課題を自覚化し得たか。	○	○	○	7
3学期	E単元「世界史上の人物」 【知識及び技能】 世界史上の人物の判断・選択・決断を把持していく。 【思考力・判断力・表現力等】 世界史上の人物の判断・選択・決断を多角的・多面的に考察する。 【学びに向かう力、人間性等】 上記の課題を自覚化する。	指導事項 世界史上の人物	【知識・技能】 世界史上の人物の判断・選択・決断を把持し得たか。 【思考・判断・表現】 世界史上の人物の判断・選択・決断を多角的・立体的に考察し得たか。 【学びに向かう力、人間性等】 上記の課題を自覚化し得たか。	○	○	○	18
							合計
							78

高等学校 令和7年度(4学年用)教科 公民 科目 公民考究

教科：公民 科目：公民考究 単位数：2 単位

対象学年組：第 4 学年 A 組

教科担当者：（A組：神田）

使用教科書：（実教出版 最新政治・経済 ）

教科 公民 の目標：

- 【知識及び技能】 選択・判断の手がかりとなる概念や理論及び、倫理、政治・経済などに関わる現代の諸課題について理解するとともに諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけようとする。
- 【思考力、判断力、表現力等】 現代の諸課題について、事実をもとに概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、解決に向けて公正に判断したりする力を養う。
- 【学びに向かう力、人間性等】 よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度と自国を愛しその平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚を深める。

科目 公民考究 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
社会の在り方に関わる現実社会の諸課題の解決に向けて探究するための手がかりとなる概念や理論などについて理解するとともに、諸資料から社会の在り方に関わる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。	国家及び社会の形成者として必要な選択・判断の基準となる考え方や政治・経済に関する概念や理論などを活用して、現実社会に見られる複雑な課題を把握し、説明するとともに、身に付けた判断基準を根拠に構想する力や、構想したことの変当性や効果、実現可能性などを指標にして議論し公正に判断して、合意形成や社会参画に向かう力を養う。	よりよい社会の実現のために現実社会の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、国民主権を担う公民として、我が国及び国際社会において国家及び社会の形成に、より積極的な役割を果たそうとする自覚などを深める。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	学	配当 時数
1 学 期	A 単元 「現代国家と民主政治」 【知識及び技能】 ・基本的人権の歴史的発展や法の支配について理解する。 ・民主政治のしくみと課題を理解したうえで、権力分立と立憲主義の重要性を理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 ・政治、国家、法のあり方について考える。 ・基本的人権の保障はどのように拡大していったのか考える。 ・世界の国々が採用している議院内閣制と大統領制には、民主政治の諸原理がどのように反映されているのか考える。 【学びに向かう力、人間性等】 ・国民主権や議会制民主主義をニュースで起こっていることと結び付けようとする。	・指導事項 ①民主政治と法 ②民主政治の基本原則 ③民主政治のしくみと課題 ④世界のおもな政治制度 ・教材 教科書、一人1台端末	【知識・技能】 ・法の意義と役割のほか、法の分類についても理解している。 ・基本的人権の歴史的発展について理解している。 ・議院内閣制・大統領制をはじめとする各国の政治制度の特徴について、民主政治の諸原理にも着目しながら理解している。 【思考・判断・表現】 ・政治とはどのような営みか、自身の身近な事例にも言及しながら考察し、適切に表現している。 ・基本的人権や法の支配の重要性について、歴史的背景にも言及しながら考察し、それらを適切に表現している。 【学びに向かう力、人間性等】 ・国民主権を担う公民としての自覚をもとに、民主政治のあり方や法の意義などについて主体的に理解・追究しようとしている。 ・国民主権を担う公民としての自覚をもとに、現実の政治制度に関する課題について主体的に理解・追究しようとしている。	○	○	○	13
	定期考査			○	○	○	1
1 学 期	B 単元 「日本国憲法と基本的人権」 【知識及び技能】 ・日本国憲法の成立過程を踏まえて、明治憲法との違いを理解する。 ・自由権の内容について理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 ・日本国憲法の基本原理を理解したうえで、憲法の改正手続きについて考える。 【学びに向かう力、人間性等】 ・日本国憲法が保障する基本的人権のうち、精神の自由について身近な例と結び付けて考える。 ・現代社会にはどのような差別があり、どのような対処がなされているのかニュースなどから見つける。	・指導事項 ①日本国憲法の成立 ②日本国憲法の基本原理 ③自由に生きる権利(1) ④自由に生きる権利(2) ⑤平等に生きる権利 ・教材 教科書、一人1台端末	【知識・技能】 ・日本国憲法の成立過程を理解している。 ・諸外国の憲法に関連する諸情報を信頼性の高い情報源から収集し、知識の補強といった形で適切に扱うことができている。 ・自由権・平等権と関連する判例（教科書掲載外の判例）を信頼性の高い情報源から収集し、それぞれ適切に分類・整理したうえで、知識の補強といった形で適切に扱うことができている。 【思考・判断・表現】 ・自由権・平等権について、各種判例や自身の身近な事例などと結びつけながら協働的に考察し、適切に表現している。 ・差別を解消すべき理由について、『公共』で学んだ「人間の尊厳」や「個人の尊重」といった視点に立ちながら、適切に表現している。 【学びに向かう力、人間性等】 ・憲法の最高法規性や日本国憲法の原理、改正手続きなどについて主体的に理解・追究しようとしている。 ・日本国憲法の三大基本原理が私たちの人権や政治に果たしている役割について関心を高め、主体的に追究しようとしている。 ・基本的人権が保障されていることの意義を知り、関心が高まっている。また、たとえば平等権と社会的な差別の諸課題について多面的かつ主体的に考察し、よりよい社会の実現を視野に、学習したことを社会の改善に生かそうとしている。	○	○	○	12
	定期考査			○	○	○	1

2 学 期	B 単元 「日本国憲法と基本的人権」 【知識及び技能】 ・社会権の内容について理解する。 ・新しい人権について理解する。 ・公共の福祉について理解する。 ・日本の安全保障政策の展開について理解する。 ・こんにちの安全保障政策の課題について理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 ・社会権にはどのような権利があり、どのように保障されているか判例をもとに考える。 ・参政権、請求権にはどのような権利があるか判例をもとに考える。 ・平和憲法のもと、どのようにして自衛隊は創設され、活動範囲をひろげてきたのか、その背景を考える。 【学びに向かう力、人間性等】 ・人権と人権が衝突した場合、どのように調整すべきか、身近な事例を基に考えを深める。 ・徹底した平和主義をかかげる日本が、今後世界で求められることは何かグループワークを通じて意見交換をする。	・指導事項 ⑥社会権と参政権・請求権 ⑦新しい人権 ⑧人権の広がりや公共の福祉 ⑨平和主義と自衛隊 ⑩日米安全保障体制の変化 ⑪21世紀の平和主義 ・教材 教科書、一人1台端末	【知識・技能】 ・冤罪や死刑制度、さまざまな差別、生存権の保障など、人権に関する現実社会の課題について理解している。 ・社会権と関連する判例（教科書掲載外の判例）を信頼性の高い情報源から収集し、それぞれ適切に分類・整理したうえで知識の補強といった形で適切に扱うことができる。 ・環境権・知る権利・プライバシーの権利などの新しい人権の内容とそれらの権利が主張されるようになった背景について理解している。 ・社会的権力による人権侵害の課題や人権の国際化の動き、公共の福祉について理解している。 ・公共の福祉の具体的な事例を信頼性の高い情報源から収集し、知識の補強といった形で適切に扱うことができる。 ・日本国憲法の平和主義の内容と日米安保体制がうまれた背景について理解している。 ・1990年代以降の安全保障体制の変容とこんにちの課題について理解している。 ・日本の安全保障をめぐる現状と課題、自衛隊の海外活動の現状といった諸情報を信頼性の高い情報源から収集し、知識の補強といった形で適切に扱うことができる。 【思考・判断・表現】 ・社会権について、各種判例や自身の身近な事例などと結びつけながら協働的に考察し、適切に表現している。 ・差別を解消すべき理由について、『公共』で学んだ「人間の尊厳」や「個人の尊重」といった視点に立ちながら、適切に表現している。 ・社会権の保障（すべての人が人間らしい生活を送れるようにするために国がすべきことは何か、など）について、協働的に考察し、適切に表現している。 ・知る権利の内容理解を踏まえたうえで、「忘れられる権利の是非」について多面的に考察し、適切に表現している。 ・現実社会の問題の解決と個人の権利との調整について、生徒みずから調べた収集した具体的な事例にもとづきながら協働的に考察し、適切に表現している。 【学びに向かう力、人間性等】 ・基本的人権が保障されていることの意義を知り、関心が高まっている。また、たとえば平等権と社会的な差別の諸課題について多面的かつ主体的に考察し、よりよい社会の実現を視野に学習したことを社会の改善に生かそうとしている。 ・新しい人権について主体的に追究して、学習上の課題を意欲的に解決しようとしている。 ・公共の福祉について主体的に追究することを通して、個人と個人の権利の衝突を調整の方法を社会生活に生かそうとしている。 ・集団的自衛権について関心が高まっており、集団的自衛権が他国との関係でどのような影響を及ぼしているのかについて主体的に検討しようとしている。 ・我が国の安全保障と防衛について主体的に追究して、学習上の課題を意欲的に解決しようとしている。	○	○	○	16
	定期考査			○	○	○	1
	C 単元 「日本の政治制度と政治参加」 【知識及び技能】 ・国会の役割や権限について理解する。 ・内閣の権限と議院内閣制について理解する。 ・司法制度のあり方や司法参加の意義について理解する。 ・地方自治の本旨や住民の権利について理解する。 ・地方がかかえる課題について理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 ・行政の民主化に必要なことは何かを考える。 ・司法権の独立はなぜ重要か考える。 ・日本の地方自治はどのような財政上の課題があるか考える。 【学びに向かう力、人間性等】 ・国会の地位・役割・構成・権限について、新聞やニュースで伝えられていることと関連付けられるようにする。 ・司法制度改革にはどのようなものがあるか、新聞やニュースなどから情報を集める。	・指導事項 ①政治機構と国会 ②内閣と行政機関の拡大 ③公正な裁判の保証 ④地方自治と住民福祉 ・教材 教科書、一人1台端末	【知識・技能】 ・国会の役割や権限、運営について理解している。 ・内閣の権限や議院内閣制のしくみについて理解している。 ・行政改革の現状、日本各地のオンプズマンの活動状況といった諸情報を信頼性の高い情報源から収集し、知識の補強といった形で適切に扱うことができる。 ・司法権の独立や裁判のしくみ、各裁判所の役割について理解している。 ・違憲審査権について理解している。 ・裁判員制度や検察審査会の意義と役割について理解している。 ・司法制度改革の現状と課題について、信頼性の高い情報源から収集し、適切に整理することができる。 ・地方自治の本旨である、団体自治と住民自治について理解している。 ・地方自治の政治・経済的な課題について理解している。 ・住民自治に基づく住民の権利や住民投票など、住民の意思を反映させる手段について理解している。 ・身近な地域の人口動向や防災面での課題について、信頼性の高い情報源から収集し、適切に整理することができる。 【思考・判断・表現】 ・裁判員制度の意義と課題について協働的に考察し、適切に表現している。 ・違憲審査権の行使について、2つの観点（消極的観点：裁判所は直接国民を代表する機関ではないので、代表者からなる国会の定めた法律の違憲審査には消極的であるべきである／積極的観点：多数決による政治で無視されがちな少数者の権利を救済できるのは裁判所以外にないのだから、違憲の法律による権利侵害に対しては積極的に違憲審査すべきである）を踏まえながら考え、適切に表現している。 【学びに向かう力、人間性等】 ・日本の政治機構について主体的に追究して、学習上の課題を意欲的に解決しようとしている。 ・行政権の拡大について関心を深めており、官僚政治と官邸主導のそれぞれの長所と短所について主体的に追求しようとしている。 ・司法制度のあり方や司法参加の意義について主体的に追究して、学習上の課題を意欲的に解決しようとしている。 ・地方がかかえる課題の概要を理解したうえで、身近な地域の人口動向や防災面での課題、東京圏への一極集中といった主題に興味関心をもち、人口動向が地域に与える影響や一極集中にもなう課題の解決策などを積極的に追究しながら、「持続可能な地域社会のあり方」や「地域における防災」を探究するための意欲を高めている。	○	○	○	15
	定期考査			○	○	○	1

3 学 期	④単元 「日本の政治制度と政治参加」 【知識及び技能】 ・日本の政党政治の特徴と課題について理解する。 ・日本の選挙制度の特徴と課題について理解する。 ・マス・メディアや市民運動の意義について理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 ・戦後日本の政党政治はどう変遷してきたのか、政党政治にはどのような課題があるか考える。 ・日本の選挙制度の課題にはどのようなものがあるか考える。 ・メディアの責任とは何か、自分の意見をまとめ、発表する。 【学びに向かう力、人間性等】 ・政党政治にはどのような課題があるか、新聞やニュースなどから情報を収集する。 ・投票率が上昇するためにはどうしたらよいか自分ごととして考える。	・指導事項 ⑤政党政治 ⑥選挙制度 ⑦世論と政治参加 ・教材 教科書、一人1台端末	【知識・技能】 ・政党政治や日本の政党政治の課題について理解している。 ・日本の選挙制度の種類とそれぞれの特徴、議員定数の不均衡などの課題について理解している。 ・選挙制度の課題、政治活動に関する規制の現状について信頼性の高い情報源から収集し、適切に整理することができる。 ・マス・メディアや市民運動が世論形成と政治にもたらす影響について理解している。 ・政治的無関心や無党派層の増加などの課題について理解している。 ・民意を国政に反映させる多様な方法について、信頼性の高い情報源から収集し、適切に整理することができる。 【思考・判断・表現】 ・日本の政党政治の課題について、「政治資金」や「政党間の競争」といった観点に立ちながら考え、適切に表現している。 ・SNSやインターネットの普及が世論形成に与えるメリットとデメリットについて多面的に考察し、適切に表現している。 【学びに向かう力、人間性等】 ・政党の変遷について主体的に追究して、なぜ離合集散が繰り返されるのかといった観点から政党政治の課題を意欲的に解決しようとしている。 ・選挙制度について関心を深めており、デジタル時代の選挙のあり方の課題を意欲的に解決しようとしている。 ・政治と民意の関係について主体的に追究し、民意を政治に反映させるための課題を意欲的に解決しようとしている。 ・政治参加と公正な世論の形成について主体的に追究して、学習上の課題を意欲的に解決しようとしている。	○	○	○	17
	定期考査			○	○	○	1
							合計 78

高等学校 令和7年度（4学年） 教科

理科

科目 教養科学

教科：理科 科目：教養科学

単位数：2 単位

対象学年組：第4学年 A組～ C組

教科担当者：（A組：上野） （C組：上野）

使用教科書：（数研出版 科人704 『科学と人間生活』）

教科 理科 の目標：

- 【知識及び技能】 自然の事物・現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けるようにする。
- 【思考力、判断力、表現力等】 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。
- 【学びに向かう力、人間性等】 自然の事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。

科目 教養科学 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
科学技術の発展の人間生活への貢献、身近な事物・現象を通しての現代の人間生活と科学技術の関連性についての知識を身に付け、これからの科学技術と人間生活のあり方について理解できている。 また、身近な事物・現象に関する観察、実験の技能を習得するとともに、それらを科学的に探究する方法を身につける。	身近な事物・現象の中に問題を見出し、観察、実験、調査などを行って得た結果について、科学的に思考し、判断する。そこから導き出した自らの考えを的確に表現する。	身近な事物・現象に関心や探究心を持ち、科学的な視点・考察力を養うとともに、科学技術に対する関心を高める態度を身につける。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	学	配当 時数
1 学 期	第2編1章 生命現象の大もととなる遺伝子のはたらき 【知識及び技能】 ・DNAの構造や遺伝子とDNAとの関係について理解する。 ・タンパク質はアミノ酸がつながってできていることを理解する。 ・DNAの塩基配列からタンパク質がつくられる過程について考え、理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 ・転写と翻訳について自分なりの表現で説明する。 ・タンパク質によってアミノ酸の並び方を予想できる。 ・ヒトの体内には多くの種類のタンパク質があり、それぞれ、さまざまなはたらきをもっていることを説明できる。 【学びに向かう力、人間性等】 ・親の形や性質などの特徴が子や孫に現れることがあることを想起し、遺伝について問題を見いだそうとする。	【指導事項】 A 遺伝子とDNA ・DNAの構造 ・遺伝子とDNAの関係 ＜観察・実験2＞DNAの抽出 B DNAの遺伝情報からタンパク質へ ・タンパク質をつくるアミノ酸 ・転写と翻訳 C 体内ではたらくタンパク質 ・さまざまなタンパク質 ・学習内容の整理 ・章末確認テスト 【教材】 ・教科書 ・授業プリント ・一人1台端末	【知識・技能】 ・安全面や衛生面に留意して実験を行い、抽出したDNAについて、スケッチや文章で適切に記録している。〔行動観察・記録分析〕 ・DNAの構造や遺伝子とDNAとの関係について理解している。〔記述分析〕 ・DNAの塩基配列を基にヒトの体内でタンパク質がつくられる過程について理解している。〔発言分析〕 【思考・判断・表現】 ・学んだことを生かして、転写と翻訳を経て体内でタンパク質がつくられる過程について、自らの言葉で表現しようとしている。〔発言分析・行動観察〕 ・ヒトの体内には多くの種類のタンパク質があり、それぞれ、生命活動に重要な役割を果たしていることを理解している。〔発言分析・記述分析〕 【学びに向かう力、人間性等】 ・視覚、血糖濃度の調節、免疫、遺伝子のはたらきについて、人間生活と関連付けて考えようとしている。〔発言分析・記述分析〕	○	○	○	11
	定期考査			○	○	○	1
	材料とその利用 【知識及び技能】 ・予防接種の意味を考え、予防接種で感染症を予防する仕組みについて理解する。 ・免疫とリンパ球のはたらきについて理解する。 ・免疫反応によってアレルギーが引き起こされることがあることを理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 ・抗原抗体反応の仕組みと特徴について説明できる。 ・免疫記憶、一次応答と二次応答の血液中の抗体濃度の変化のデータを基に、免疫記憶の利点について考察する。 【学びに向かう力、人間性等】 ・うがいや手洗いの重要性について考え、病原体から体を守るための仕組みについて問題を見いだす。	【指導事項】 A 感染症から体を守るしくみ ・免疫を支えるリンパ球 ・B細胞としてはたらく抗体 ・抗原抗体反応の特徴 ・免疫記憶 ＜実習2＞免疫記憶の利点を考えよう B 免疫のしくみと日常生活 ・予防接種で感染症予防のしくみ ・免疫反応で起こるアレルギー 【教材】 ・教科書 ・授業プリント ・一人1台端末	【知識・技能】 ・免疫の仕組みとしての抗原抗体反応や免疫記憶、それらを利用した治療法について理解している。〔発言分析・記述分析〕 【思考・判断・表現】 ・一次応答と二次応答の血液中の抗体濃度の変化のグラフを読み取り、科学的に考察して、免疫記憶の利点を見だし、表現している。〔発言分析・記述分析〕 ・はしかの予防接種の効果について、データを基に科学的に考察して見だし、表現している。〔発言分析・記述分析〕 【学びに向かう力、人間性等】 ・予防接種で感染症を予防する仕組みや免疫反応によるアレルギーについて理主体的に調べようとしている。〔発言分析・記述分析〕	○	○	○	14
	定期考査			○	○	○	1

2 学 期	微生物とその利用 【知識及び技能】 ・私たちの身のまわりには無数の微生物が存在することを実験を通して理解できている。 ・微生物には特徴の異なるさまざまな生物が含まれることを理解できている。 ・目に見えない微生物の存在を認識するに至った科学史を理解できている。 【思考力、判断力、表現力等】 ・発酵食品の生産には微生物が利用されることを、食品中の微生物の観察を通して考えさせる。 ・乳酸発酵とアルコール発酵が起こる際の反応を理解できているとともに、それぞれを利用してつくられる発酵食品について学習させる。 ・ワクチンや抗生物質などがどのような物質であるのかを理解できているとともに、それらの医薬品の生産に微生物が利用されていることを学習させる。 【学びに向かう力、人間性等】 ・分解者としての微生物のはたらきを理解できている。 ・炭素や窒素の循環の概要とそれに関わる微生物の役割を理解できている。 ・微生物による分解によって自然浄化が行われていることや、微生物の分解能力を利用した浄化が試されていることを学習させる。	【指導事項】 A 身のまわりの微生物 ・微生物とその発見の歴史 ・発酵食品への微生物の利用 B 医薬品への微生物の利用 ・生態系における微生物 ・環境の浄化と微生物 【教材】 ・教科書 ・授業プリント ・一人1台端末	【知識・技能】 ・微生物の生息場所や種類について理解できている。 ・微生物に関わる一連の科学史を理解できている。 ・発酵および発酵食品について理解できている。 ・乳酸発酵およびアルコール発酵について理解できている。 ・ワクチンや抗生物質などの医薬品の製造に微生物が関わっていることを理解できている。 ・炭素循環と窒素循環に微生物が関わっていることを理解できている。 ・汚水や環境の浄化に微生物が利用されていることを理解できている。 【思考・判断・表現】 ・微生物を培養する実験から、微生物が生息する場所について考察できる。 ・微生物の科学史についての学習を通して、目に見えない微生物を調べる方法について考察できる。 ・発酵食品に含まれる微生物の観察を通して、発酵食品と微生物との関わりについて考察できる。 ・アルコール発酵の実験を通して、アルコール発酵の反応について説明できる。 ・土壌中の微生物を確認する実験を通して、生態系における微生物の役割を説明できる。 ・活性汚泥の観察を通して、下水処理のしくみについて説明できる。 【学びに向かう力、人間性等】 ・微生物が人間生活のさまざまな場面に役立っていることを意欲的に理解しようとしている。	○	○	○	10	
	定期考査			○	○	○	1	
	2 学 期	熱の性質とその利用 【知識及び技能】 ・温度は何を表すものなのか理解できている。 ・熱容量と比熱について理解できている。 ・電力量と電力の定義について学習させる。 【思考力、判断力、表現力等】 ・物体をつくる粒子が熱運動をしていることを、実験を通して理解できている。 ・熱伝導、対流、熱放射では、それぞれどのように熱が伝わるのか理解できている。 ・物質の三態、融解熱・蒸発熱について、物質をつくる粒子に着目して理解できている。 【学びに向かう力、人間性等】 ・エネルギーに関心を持ち、さまざまな種類に分類し考えさせる。 ・可逆変化と不可逆変化は、それぞれどのような変化なのか考えさせる。 ・どのような方法で電力を生み出しているか考えさせる。	【指導事項】 A 温度と熱運動 ・熱容量・比熱 ・熱の伝わり方 B 仕事や電流と熱の発生エネルギー ・移り変わり ・熱エネルギーの利用 ・エネルギー資源の利用 【教材】 ・教科書 ・授業プリント ・一人1台端末	【知識・技能】 ・セルシウス温度と絶対温度について理解できている。 ・熱平衡とはどのような状態か理解できている。 ・熱量の保存について実験を通して、理解できている。 【思考・判断・表現】 ・エネルギーは相互に変換されることを実験を通して考えている。 ・仕事による熱の発生について、実験を通して考えている。 ・ジュールの実験にも触れ、仕事と熱量が比例関係にあることを説明できる。 ・電流の仕事により熱が発生することと、その発熱量はジュールの法則に従うことを説明できる。 【学びに向かう力、人間性等】 ・熱機関について、実験を通して主体的に学び、得た熱量のすべてを仕事に変えることはできないことを説明しようとしている。 ・複合サイクル方式やコージェネレーションシステムなど、エネルギーを効率的に利用する技術があることを深く調べ、まとめようとしている。	○	○	○	12
定期考査				○	○	○	1	
3 学 期		自然景観と自然災害 【知識及び技能】 ・地震発生のしくみを理解する。 ・火山噴火のしくみについて理解する。 ・マグニチュードと震度の違いを理解する。 ・風化、侵食、運搬の3作用を理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 ・マグマの性質と溶岩の噴出量によって、火山の大きさや形が変化することを学習させる。 ・火山活動によって引き起こされる災害について学習させる。 ・ハザードマップを作成する。 【学びに向かう力、人間性等】 ・風化・侵食・運搬の作用によって、山地、河川ぞい、平野ではそれぞれ特徴的な地形が形成されることを理解しようとする。 ・土砂災害を引き起こす現象の種類と危険性の高い地形との関係について理解しようとする。	【指導事項】 A 日本列島とプレート ・地震のしくみと地震活動 ・地震による災害 B 火山がもたらす恵みと災害 ・水のはたらきと自然景観 ・土砂災害と洪水 【教材】 ・教科書 ・授業プリント ・一人1台端末	【知識・技能】 ・地震発生のしくみを理解できている。 ・火山噴火のしくみについて理解できている。 ・マグニチュードと震度の違いを理解できている。 ・風化、侵食、運搬の3作用を理解できている。 【思考・判断・表現】 ・日本列島がプレート境界に位置することから、プレート境界にそって多くの地震が発生することを説明できる。 ・プレートの運動によって高くなった山は、流れる水のはたらきによって低くなることを理解できている。 【学びに向かう力、人間性等】 ・地震によって発生する災害やその危険性について、意欲的に考えようとしている。 ・火山は災害を引き起こすだけでなく、温泉や鉱物資源など私たちの生活に恵みをもたらしていることを理解しようとしている。	○	○	○	9
	定期考査			○	○	○	1	
	3 学 期	課題研究 【知識及び技能】 自然や生活の中から疑問を発見させ、そのテーマについて調べていく方法を学ばせる。 【思考力、判断力、表現力等】 調べたことをまとめ、発表する技術と方法を学ばせる。 【学びに向かう力、人間性等】 自分の考えを相手に正しく効果的に伝えることの大切さを考えさせる。	【指導事項】 各自、時事的な科学トピックを課題研究し、クラス発表する。 【教材】 ・教科書 ・授業プリント ・一人1台端末	【知識・技能】 自然や生活の中から疑問を発見し、そのテーマについて調べ、深く理解する。 【思考・判断・表現】 知りえた情報をわかりやすく整理し、原稿にまとめることができる。また、他者に簡潔に説明し、内容を効果的に伝えることができる。 【学びに向かう力、人間性等】 自分の課題に対し、関心を持って調べ、課題解決に向け意欲的に取り組もうとしている。	○	○	○	17
定期考査				○	○	○	1	
							合計	78

足立 高等学校 令和7年度（4学年用） 教科 保健体育 科目 体育

教 科： 保健体育 科 目： 体育 単位数： 2 単位

対象学年組： 第 4 学年 A 組 ・ C 組

教科担当者： （A組：澤野、北川、益田） （C組：澤野、北川、益田）

使用教科書： （大修館 現代高等保健体育）

教科 保健体育 の目標：

【知 識 及 び 技 能】	各種の運動の特性に応じた技能等及び社会生活における健康・安全について理解するとともに、技能を身につけるようにする。
【思考力、判断力、表現力等】	運動や健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。
【学びに向かう力、人間性等】	生涯にわたって継続して運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。

科目 体育 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身につけるようにする。	生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。	運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	学	配当 時数
1 学 期 ・ 2 学 期 ・ 3 学 期	球技(ゴール型・バスケットボール) 【知識及び技能】勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解するとともに、作戦に応じた技術で仲間と連携し、ゲームを展開することができるようにする。 【思考力、判断力、表現力等】安定したボール操作と空間を作り出すなどの動きによってゴール前への侵入などから攻防をすることができるようにする。 【学びに向かう力、人間性等】球技に自主的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとし、作戦などについての話し合いに貢献しようとし、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとし、互いに助け合い教え合おうとし、健康・安全を確保することができるようにする。	①ゴールの枠内にシュートをコントロールすること。②味方が操作しやすいパスを送ること。③守備者とボールの間に自分の体を入れてボールをキープすること。④ゴール前に広い空間を作り出すために、守備者を引きつけてゴールから離れること。⑤パスを出した後に次のパスを受ける動きをすること。⑥ボール保持者が進行できる空間を作り出すために、進行方向から離れること。⑦ゴールとボール保持者を結んだ直線上で守ること。⑧ゴール前の空いている場所をカバーすること。	【知識・技能】①バスケットボールの技術や戦術、作戦の名称とそれらを身につけるためのポイントを理解することができた。②ゲームのルール、試合方法や審判や運営の仕方など、競技会の行い方を理解することができた。③安定したボール操作や状況に応じたボール操作、チームメイトと連携して空間を作り出す動きや空間を埋める動きなどをゲームで行うことができた。 【思考・判断・表現】①自分やチームの課題を見つけ、これまで学んだ知識や技能を活用して、課題解決に有効な練習方法を選択したり、課題を解決するための練習計画を立てることができた。②練習やゲーム時に、よりよいマナーやプレイができ、健康や安全を確保する活動ができるように、自分やチームの活動を振り返るとともに仲間に提案することができた。③チームで作戦や戦術を選ぶ際に、仲間と話し合い、自分の考えを仲間に伝えることで皆が納得することができた。④体力や技能の程度、性別等の違いに配慮して、仲間とともに楽しむための練習やゲームの行い方を工夫することができた。 【主体的に学習に取り組む態度】①分担した役割に主体的に取り組み、練習やゲーム、チームの話し合いに積極的に参加することができた。②競技の特性に応じた危険を理解したうえで、安全に留意して実施するとともに、フェアなプレイを大切にゲームをすることができた。③一人一人の違いに応じた課題や挑戦を認め、仲間を称えとともに、仲間へ助言することで信頼関係を深め、互いに高め合うことができた。	○	○	○	12
	実技テスト			○	○	○	2
1 学 期 ・ 2 学 期 ・ 3 学 期	球技(ネット型・バドミントン) 【知識及び技能】勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解するとともに、作戦に応じた技術で仲間と連携し、ゲームを展開することができるようにする。 【思考力、判断力、表現力等】役割に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防をすることができるようにする。 【学びに向かう力、人間性等】球技に自主的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとし、作戦などについての話し合いに貢献しようとし、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとし、互いに助け合い教え合おうとし、健康・安全を確保することができるようにする。	①サーブでは、ボールをねらった場所に打つこと。②ボールを相手側のコートに打ち返すこと。③腕やラケットを強く振って、ネットより高い位置から相手側のコートに打ち込むこと。④ラリーの中で、見方の動きに合わせてコート上の空いている場所をカバーすること。⑤連携プレイのための基本的なフォーメーションに応じた位置に動くこと。	【知識・技能】①バドミントンの技術や戦術、作戦の名称とそれらを身につけるためのポイントを理解することができた。②ゲームのルール、試合方法や審判や運営の仕方など、競技会の行い方を理解することができた。③役割に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防がゲームで行うことができた。 【思考・判断・表現】①自分やチームの課題を見つけ、これまで学んだ知識や技能を活用して、課題解決に有効な練習方法を選択したり、課題を解決するための練習計画を立てることができた。②練習やゲーム時に、よりよいマナーやプレイができ、健康や安全を確保する活動ができるように、自分やチームの活動を振り返るとともに仲間に提案することができた。③チームで作戦や戦術を選ぶ際に、仲間と話し合い、自分の考えを仲間に伝えることで皆が納得することができた。④体力や技能の程度、性別等の違いに配慮して、仲間とともに楽しむための練習やゲームの行い方を工夫することができた。 【学びに向かう力、人間性等】①分担した役割に主体的に取り組み、練習やゲーム、チームの話し合いに積極的に参加することができた。②競技の特性に応じた危険を理解したうえで、安全に留意して実施するとともに、フェアなプレイを大切にゲームをすることができた。③一人一人の違いに応じた課題や挑戦を認め、仲間を称えとともに、仲間へ助言することで信頼関係を深め、互いに高め合うことができた。	○	○	○	12
	実技テスト			○	○	○	2

1 学 期 ・ 2 学 期 ・ 3 学 期	球技(ネット型・卓球) 【知識及び技能】勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解するとともに、作戦に応じた技術で仲間と連携し、ゲームを展開することができるようにする。 【思考力、判断力、表現力等】役割に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防をすることができるようにする。 【学びに向かう力、人間性等】球技に自主的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとするこ、作戦などについての話し合いに貢献しようとし、互いに助け合い教え合おうとすることなどや、健康・安全を確保することができるようにする。	①サービスでは、ボールをねらった場所に打つこと。②ボールを相手側のコートの空いた場所やねらった場所に打ち返すこと。③腕やラケットを強く振って、ネットより高い位置から相手側のコートに打ち込むこと。④ラリーの中で、見方の動きに合わせてコート上の空いている場所をカバーすること。⑤連携プレイのための基本的なフォーメーションに応じた位置に動くこと。	【知識・技能】①卓球の技術や戦術、作戦の名称とそれらを身につけるためのポイントを理解することができた。②ゲームのルール、試合方法や審判や運営の仕方など、競技会の行い方を理解することができた。③役割に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防がゲームで行うことができた。 【思考・判断・表現】①自分やチームの課題を見つけ、これまで学んだ知識や技能を活用して、課題解決に有効な練習方法を選択したり、課題を解決するための練習計画を立てることができた。②練習やゲーム時に、よりよいマナーやプレイができ、健康や安全を確保する活動ができるように、自分やチームの活動を振り返るとともに仲間に提案することができた。③チームで作戦や戦術を選ぶ際に、仲間と話し合い、自分の考えを仲間に伝えることで皆が納得することができた。④体力や技能の程度、性別等の違いに配慮して、仲間とともに楽しむための練習やゲームの行い方を工夫することができた。 【学びに向かう力、人間性等】①分担した役割に主体的に取り組む、練習やゲーム、チームの話し合いに積極的に参加することができた。②競技の特性に応じた危険を理解したうえで、安全に留意して実施するとともに、フェアなプレイを大切にゲームをすることができた。③一人一人の違いに応じた課題や挑戦を認め、仲間を称えとともに、仲間へ助言することで信頼関係を深め、互いに高め合うことができた。	○	○	○	12
	実技テスト			○	○	○	2
	1 学 期 ・ 2 学 期 ・ 3 学 期	球技(ネット型・卓球) 【知識及び技能】勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解するとともに、作戦に応じた技術で仲間と連携し、ゲームを展開することができるようにする。 【思考力、判断力、表現力等】役割に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防をすることができるようにする。 【学びに向かう力、人間性等】球技に自主的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとするこ、作戦などについての話し合いに貢献しようとし、互いに助け合い教え合おうとすることなどや、健康・安全を確保することができるようにする。	①サービスでは、ボールをねらった場所に打つこと。②ボールを相手側のコートの空いた場所やねらった場所に打ち返すこと。③腕やラケットを強く振って、ネットより高い位置から相手側のコートに打ち込むこと。④ラリーの中で、見方の動きに合わせてコート上の空いている場所をカバーすること。⑤連携プレイのための基本的なフォーメーションに応じた位置に動くこと。	【知識・技能】①卓球の技術や戦術、作戦の名称とそれらを身につけるためのポイントを理解することができた。②ゲームのルール、試合方法や審判や運営の仕方など、競技会のおこない方を理解することができた。③役割に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防がゲームで行うことができた。 【思考・判断・表現】①自分やチームの課題を見つけ、これまで学んだ知識や技能を活用して、課題解決に有効な練習方法を選択したり、課題を解決するための練習計画を立てることができた。②練習やゲーム時に、よりよいマナーやプレイができ、健康や安全を確保する活動ができるように、自分やチームの活動を振り返るとともに仲間に提案することができた。③チームで作戦や戦術を選ぶ際に、仲間と話し合い、自分の考えを仲間に伝えることで皆が納得することができた。④体力や技能の程度、性別等の違いに配慮して、仲間とともに楽しむための練習やゲームの行い方を工夫することができた。 【学びに向かう力、人間性等】①分担した役割に主体的に取り組む、練習やゲーム、チームの話し合いに積極的に参加することができた。②競技の特性に応じた危険を理解したうえで、安全に留意して実施するとともに、フェアなプレイを大切にゲームをすることができた。③一人一人の違いに応じた課題や挑戦を認め、仲間を称えとともに、仲間へ助言することで信頼関係を深め、互いに高め合うことができた。	○	○	○
実技テスト			○	○	○	2	
1 学 期 ・ 2 学 期 ・ 3 学 期		球技(ゴール型・アルティメット) 【知識及び技能】勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解するとともに、作戦に応じた技術で仲間と連携し、ゲームを展開することができるようにする。 【思考力、判断力、表現力等】安定したディスク操作と空間を作り出すなどの動きによってゴール前への侵入などから攻防をすることができるようにする。 【学びに向かう力、人間性等】球技に自主的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとするこ、作戦などについての話し合いに貢献しようとし、互いに助け合い教え合おうとすることなどや、健康・安全を確保することができるようにする。	①エンドゾーン内にパスをコントロールすること。②味方が操作しやすいパスを送ること。③守備者とディスクの間に自分の体を入れてボールをキープすること。④ゴール前に広い空間を作り出すために、守備者を引きつけてゴールから離れること。⑤パスを出した後に次のパスを受ける動きをすること。⑥ゴールとディスク保持者を結んだ直線上で守ること。	【知識・技能】①アルティメットの技術や戦術、作戦の名称とそれらを身につけるためのポイントを理解することができた。②ゲームのルール、試合方法や審判や運営の仕方など、競技会の行い方を理解することができた。③安定したディスク操作やエンドゾーン前での攻防を展開するためのディスク操作と空間に走りこむなどの動きをゲームで行うことができた。 【思考・判断・表現】①自分やチームの課題を見つけ、これまで学んだ知識や技能を活用して、課題解決に有効な練習方法を選択したり、課題を解決するための練習計画を立てることができた。②練習やゲーム時に、よりよいマナーやプレイができ、健康や安全を確保する活動ができるように、自分やチームの活動を振り返るとともに仲間に提案することができた。③チームで作戦や戦術を選ぶ際に、仲間と話し合い、自分の考えを仲間に伝えることで皆が納得することができた。④体力や技能の程度、性別等の違いに配慮して、仲間とともに楽しむための練習やゲームの行い方を工夫することができた。 【学びに向かう力、人間性等】①分担した役割に主体的に取り組む、練習やゲーム、チームの話し合いに積極的に参加することができた。②競技の特性に応じた危険を理解したうえで、安全に留意して実施するとともに、フェアなプレイを大切にゲームをすることができた。③一人一人の違いに応じた課題や挑戦を認め、仲間を称えとともに、仲間へ助言することで信頼関係を深め、互いに高め合うことができた。	○	○	○
	実技テスト			○	○	○	2

1 学 期 ・ 2 学 期 ・ 3 学 期	球技(ネット型・テニス) 【知識及び技能】勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解するとともに、作戦に応じた技術で仲間と連携し、ゲームを展開することができるようにする。 【思考力、判断力、表現力等】役割に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防をすることができるようにする。 【学びに向かう力、人間性等】球技に自主的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする、作戦などについての話し合いに貢献しようとする、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとする、互いに助け合い教え合おうとすることなどや、健康・安全を確保することができるようにする。	①サービスでは、ボールをねらった場所に打つこと。②ボールを相手側のコートの空いた場所やねらった場所に打ち返すこと。③腕やラケットを強く振って、ネットより高い位置から相手側のコートに打ち込むこと。④ラリーの中で、見方の動きに合わせてコート上の空いている場所をカバーすること。⑤連携プレイのための基本的なフォーメーションに応じた位置に動くこと。	【知識・技能】①テニスの技術や戦術、作戦の名称とそれらを身につけるためのポイントを理解することができた。②ゲームのルール、試合方法や審判や運営の仕方など、競技会の行い方を理解することができた。③役割に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防がゲームで行うことができた。 【思考・判断・表現】①自分やチームの課題を見つけ、これまで学んだ知識や技能を活用して、課題解決に有効な練習方法を選択したり、課題を解決するための練習計画を立てることができた。②練習やゲーム時に、よりよいマナーやプレイができ、健康や安全を確保する活動ができるように、自分やチームの活動を振り返るとともに仲間に提案することができた。③チームで作戦や戦術を選ぶ際に、仲間と話し合い、自分の考えを仲間に伝えることで皆が納得することができた。④体力や技能の程度、性別等の違いに配慮して、仲間とともに楽しむための練習やゲームの行い方を工夫することができた。 【学びに向かう力、人間性等】①分担した役割に主体的に取り組む、練習やゲーム、チームの話し合いに積極的に参加することができた。②競技の特性に応じた危険を理解したうえで、安全に留意して実施するとともに、フェアなプレイを大切にしてゲームをすることができた。③一人一人の違いに応じた課題や挑戦を認め、仲間を称えとともに、仲間へ助言することで信頼関係を深め、互いに高め合うことができた。	○	○	○	9
	実技テスト			○	○	○	2
							合計 78

足立 高等学校 令和7年度（4学年用） 教科 保健体育 科目 アクティブスポーツ

教 科： 保健体育 科 目： アクティブスポーツ 単位数： 2 単位

対象学年組：第 4 学年 A 組 ・ C 組

教科担当者：（A組：澤野、北川） （C組：澤野、北川）

使用教科書：（大修館 現代高等保健体育）

教科 保健体育 の目標：

【知 識 及 び 技 能】	各種の運動の特性に応じた技能等及び社会生活における健康・安全について理解するとともに、技能を身につけるようにする。
【思考力、判断力、表現力等】	運動や健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。
【学びに向かう力、人間性等】	生涯にわたって継続して運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。

科目 アクティブスポーツ の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身につけるようにする。	生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。	運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	学	配当 時数
1 学 期 ・ 2 学 期 ・ 3 学 期	球技(ゴール型・バスケットボール) 【知識及び技能】勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解するとともに、作戦に応じた技術で仲間と連携し、ゲームを展開することができるようにする。 【思考力、判断力、表現力等】安定したボール操作と空間を作り出すなどの動きによってゴール前への侵入などから攻防をすることができるようにする。 【学びに向かう力、人間性等】球技に自主的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようすること、作戦などについての話し合いに貢献しようすること、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようすること、互いに助け合い教え合おうすることなどや、健康・安全を確保することができるようにする。	①ゴールの枠内にシュートをコントロールすること。②味方が操作しやすいパスを送ること。③守備者とボールの間に自分の体を入れてボールをキープすること。④ゴール前に広い空間を作り出すために、守備者を引きつけてゴールから離れること。⑤パスを出した後に次のパスを受ける動きをすること。⑥ボール保持者が進行できる空間を作り出すために、進行方向から離れること。⑦ゴールとボール保持者を結んだ直線上で守ること。⑧ゴール前の空いている場所をカバーすること。	【知識・技能】①バスケットボールの技術や戦術、作戦の名称とそれらを身につけるためのポイントを理解することができた。②ゲームのルール、試合方法や審判や運営の仕方など、競技会の行い方を理解することができた。③安定したボール操作や状況に応じたボール操作、チームメイトと連携して空間を作り出す動きや空間を埋める動きなどをゲームで行うことができた。 【思考・判断・表現】①自分やチームの課題を見つけ、これまで学んだ知識や技能を活用して、課題解決に有効な練習方法を選択したり、課題を解決するための練習計画を立てることができた。②練習やゲーム時に、よりよいマナーやプレイができ、健康や安全を確保する活動ができるように、自分やチームの活動を振り返るとともに仲間に提案することができた。③チームで作戦や戦術を選ぶ際に、仲間と話し合い、自分の考えを仲間に伝えることで皆が納得することができた。④体力や技能の程度、性別等の違いに配慮して、仲間とともに楽しむための練習やゲームのおこない方を工夫することができた。 【学びに向かう力、人間性等】①分担した役割に主体的に取り組み、練習やゲーム、チームの話し合いに積極的に参加することができた。②競技の特性に応じた危険を理解したうえで、安全に留意して実施するとともに、フェアなプレイを大切にしてゲームをすることができた。③一人一人の違いに応じた課題や挑戦を認め、仲間を称えるとともに、仲間へ助言することで信頼関係を深め、互いに高め合うことができた。	○	○	○	25
	実技テスト			○	○	○	2
1 学 期 ・ 2 学 期 ・ 3 学 期	球技(ネット型・バドミントン) 【知識及び技能】勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解するとともに、作戦に応じた技術で仲間と連携し、ゲームを展開することができるようにする。 【思考力、判断力、表現力等】役割に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防をすることができるようにする。 【学びに向かう力、人間性等】球技に自主的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようすること、作戦などについての話し合いに貢献しようすること、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようすること、互いに助け合い教え合おうすることなどや、健康・安全を確保することができるようにする。	①サービスでは、ボールをねらった場所に打つこと。②ボールを相手側のコートに空いた場所やねらった場所に打ち返すこと。③腕やラケットを強く振って、ネットより高い位置から相手側のコートに打ち込むこと。④ラリーの中で、見方の動きに合わせてコート上の空いている場所をカバーすること。⑤連携プレイのための基本的なフォーメーションに応じた位置に動くこと。	【知識・技能】①バドミントンの技術や戦術、作戦の名称とそれらを身につけるためのポイントを理解することができた。②ゲームのルール、試合方法や審判や運営の仕方など、競技会の行い方を理解することができた。③役割に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防がゲームで行うことができた。 【思考・判断・表現】①自分やチームの課題を見つけ、これまで学んだ知識や技能を活用して、課題解決に有効な練習方法を選択したり、課題を解決するための練習計画を立てることができた。②練習やゲーム時に、よりよいマナーやプレイができ、健康や安全を確保する活動ができるように、自分やチームの活動を振り返るとともに仲間に提案することができた。③チームで作戦や戦術を選ぶ際に、仲間と話し合い、自分の考えを仲間に伝えることで皆が納得することができた。④体力や技能の程度、性別等の違いに配慮して、仲間とともに楽しむための練習やゲームのおこない方を工夫することができた。 【学びに向かう力、人間性等】①分担した役割に主体的に取り組み、練習やゲーム、チームの話し合いに積極的に参加することができた。②競技の特性に応じた危険を理解したうえで、安全に留意して実施するとともに、フェアなプレイを大切にしてゲームをすることができた。③一人一人の違いに応じた課題や挑戦を認め、仲間を称えるとともに、仲間へ助言することで信頼関係を深め、互いに高め合うことができた。	○	○	○	31
	実技テスト			○	○	○	2

1 学 期 ・ 2 学 期 ・ 3 学 期	球技(ネット型・卓球) 【知識及び技能】勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解するとともに、作戦に応じた技術で仲間と連携し、ゲームを展開することができるようにする。 【思考力、判断力、表現力等】役割に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防をできるようにする。 【学びに向かう力、人間性等】球技に主体的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする、作戦などについての話し合いに貢献しようとする、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとする、互いに助け合い教え合おうとすることなどや、健康・安全を確保することができるようにする。	①サービスでは、ボールをねらった場所に打つこと。②ボールを相手側のコートに空いた場所やねらった場所に打ち返すこと。③腕やラケットを強く振って、ネットより高い位置から相手側のコートに打ち込むこと。④ラリーの中で、見方の動きに合わせてコート上の空いている場所をカバーすること。⑤連携プレイのための基本的なフォーメーションに応じた位置に動くこと。	【知識・技能】①卓球の技術や戦術、作戦の名称とそれらを身につけるためのポイントを理解することができた。②ゲームのルール、試合方法や審判や運営の仕方など、競技会の行い方を理解することができた。③役割に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防をゲームで行うことができた。 【思考・判断・表現】①自分やチームの課題を見つけ、これまで学んだ知識や技能を活用して、課題解決に有効な練習方法を選択したり、課題を解決するための練習計画を立てることができた。②練習やゲーム時に、よりよいマナーやプレイができ、健康や安全を確保する活動ができるように、自分やチームの活動を振り返るとともに仲間に提案することができた。③チームで作戦や戦術を選ぶ際に、仲間と話し合い、自分の考えを仲間に伝えることで皆が納得することができた。④体力や技能の程度、性別等の違いに配慮して、仲間とともに楽しむための練習やゲームのおこない方を工夫することができた。 ①分担した役割に主体的に取り組む、練習やゲーム、チームの話し合いに積極的に参加することができた。②競技の特性に応じた危険を理解したうえで、安全に留意して実施するとともに、フェアなプレイを大切にゲームをすることができた。③一人一人の違いに応じた課題や挑戦を認め、仲間を称えとともに、仲間へ助言することで信頼関係を深め、互いに高め合うことができた。	○	○	○	16
	実技テスト			○	○	○	2
							合計
							78

高等学校 令和7年度（4学年用） 教科 芸術 科目 音楽Ⅰ

教 科： 芸術

科 目： 音楽Ⅰ

単位数： 2 単位

対象学年組：第 4 学年 A 組～ C 組

教科担当者：（ A組：菅原 ） （ C組：菅原 ）

使用教科書：（ ON!（音楽之友社） ）

教科 芸術

の目標：

【知 識 及 び 技 能】

芸術に関する各項目の特質について理解するとともに意図に基づいて表現するための技能を身につける。

【思考力、判断力、表現力等】

創造的な表現をしたり、芸術の良さや美しさを深く味わったりすることができるようにする。

【学びに向かう力、人間性等】

生涯にわたり芸術を愛好する心情を育むとともに感性を高め心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を養う。

科目 音楽Ⅰ

の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
表現するための技能として、まず楽譜を読む力を養い、その知識を具体的に表現できる力を身につける。	より良い表現・自分がやりたい表現をめざして試行錯誤する中で他人の表現を鑑賞したり修正をしたりしながら自分の表現を完成させていく。	今までの自分の愛好する音楽だけではなく、自分の中の引き出しを増やし、いろいろな種類の音楽に興味を持てるようにする。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	表現			鑑賞	評価規準	知	思	学	配 当 時 数
			歌	器	創						
1 学 期	A 歌唱 【知識及び技能】 音符を読みながら楽譜を見て歌う。 【思考力、判断力、表現力等】 強弱・歌詞の意味に注目する。 【学びに向かう力、人間性等】 主体的に取り組むことができる。	・斉唱 花は咲く 少年時代 等 ・一人一人の距離を取りながら自信をもってはっきりと声を出す。	○			○	A 歌唱 【知識及び技能】 音符を読みながら楽譜を見て歌っているか。 【思考力、判断力、表現力等】 強弱・歌詞の意味に注目しながら歌唱しているか。 【学びに向かう力、人間性等】 主体的に取り組んでいるか。	○	○	○	8
	B 器楽 【知識及び技能】 音符を読みながら楽譜を見て弾く 【思考力、判断力、表現力等】 強弱・指の使い方に気をつける 【学びに向かう力、人間性等】 クラスメイトの表現を鑑賞する	・キーボードの演奏 ・教材 やさしさにつつまれたなら 他 ・音符を読んでメロディーを演奏する。 ・コードやベースと合わせる。		○		○	B 器楽 【知識及び技能】 音符を読みながら楽譜を見て弾いているか。 【思考力、判断力、表現力等】 強弱・指の使い方を工夫しているか。 【学びに向かう力、人間性等】 クラスメイトの表現をまじめに鑑賞できるか。		○	○	11
	C 楽典 【知識及び技能】 コード理論を理解し、実践する。 【思考力、判断力、表現力等】 譜面を読み解く力をつける。 【学びに向かう力、人間性等】 主体的に取り組むことができる。	・読譜指導 音符の高さ・長さを理解する コードとベースを理解し、リズムを創作する ・教材 教科書の楽典ページ プリント DVD教材			○		C 楽典 【知識及び技能】 音符の長さや高さを理解しているか 【思考力、判断力、表現力等】 譜面を読み解く力がついたか 【学びに向かう力、人間性等】 主体的に取り組んでいるか		○	○	7
	好きな歌を歌おう	好きな歌を選んで歌う。				○	音やリズムを自由に楽しむ。				1
2 学 期	A 歌唱 【知識及び技能】 音符を読みながら楽譜を見て歌う。 【思考力、判断力、表現力等】 強弱・歌詞の意味に注目する。 【学びに向かう力、人間性等】 主体的に取り組むことができる。	・合唱 Tonight A Whole New World 等 ・一人一人の距離を取りながら自信をもってはっきりと声を出す。他のパートの声を聴きながら歌う。	○			○	A 歌唱 【知識及び技能】 音符を読みながら楽譜を見て歌っているか。 【思考力、判断力、表現力等】 強弱・歌詞の意味に注目しながら歌唱しているか。また、他パートの声を聞いているか。 【学びに向かう力、人間性等】 主体的に取り組んでいるか。	○	○	○	15
	B 器楽 【知識及び技能】 音符を読みながら楽譜を見て弾く。 【思考力、判断力、表現力等】 指の使い方に気をつける。 【学びに向かう力、人間性等】 クラスメイトの表現を鑑賞する。	・ギターの演奏 ・教材 少年時代 前前前世 他 ・音符を読んでメロディーを演奏する。 コード表を読み、伴奏ができるようにする。 自分なりのアレンジを加える。		○	○	○	B 器楽 【知識及び技能】 音符を読みながら楽譜を見て弾いているか。 【思考力、判断力、表現力等】 指の使い方を工夫しているか。 【学びに向かう力、人間性等】 クラスメイトの表現をまじめに鑑賞できるか。		○	○	18
3 学 期	A 歌唱 【知識及び技能】 音符を読みながら楽譜を見て歌う。 【思考力、判断力、表現力等】 強弱・歌詞の意味に注目する。 【学びに向かう力、人間性等】 主体的に取り組むことができる。	・斉唱 Caro mi obem O Sole mio 等 ・一人一人の距離を取りながら自信をもってはっきりと声を出す。	○			○	A 歌唱 【知識及び技能】 音符を読みながら楽譜を見て歌っているか。 【思考力、判断力、表現力等】 強弱・歌詞の意味に注目しながら歌唱しているか。 【学びに向かう力、人間性等】 主体的に取り組んでいるか。	○	○	○	7
	B 器楽 【知識及び技能】 音符を読みながら楽譜を見る。 【思考力、判断力、表現力等】 人の音を聞きながら自分のタイミングを合わせる。 【学びに向かう力、人間性等】 クラスメイトの表現を鑑賞する。	・トーンチャイムの演奏 ・教材 海に見える街 他 ・音符を読んで自分の分担音を演奏する。 ・伴奏と合わせる。		○		○	B 器楽 【知識及び技能】 音符を読みながら楽譜を見て弾いているか。 【思考力、判断力、表現力等】 人の音とタイミングを合わせられるか。 【学びに向かう力、人間性等】 クラスメイトの表現をまじめに鑑賞できるか。		○	○	11 合計 78

足立 高等学校 令和 7 年度（4 学年用） 教科 芸術 科目 美術 I

单位数： 2 单位

)

)

の目標：

芸術に関する各項目の特質について理解するとともに、意図に基づいて表現するための技能を身につけるようにする。

創造的な表現を工夫したり、芸術のよさや美しさを深く味わったりすることができるようにする。

生涯にわたり芸術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う。

の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができるようにする。	造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し創造的に発想し構想を練ったり、価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。	主体的に美術の幅広い創造活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、美術文化に親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	表現			鑑賞	評価規準	知	思	学	配 当 時 数
			絵 ・ 彫	デ	映						
1 学 期	A 題材 観察力を身につけよう (色鉛筆による草花の写生) 【知識及び技能】 ・意図に応じて材料や用具の特性を生かすとともに、色や質感などの表現を工夫し、主題を追求しあわわしている。 【思考力、判断力、表現力等】 ・身近なものを見つめ、主題を生成し、形や色、構図、材料や用具の特性などについて考え表現の構想を練っている。 【学びに向かう力、人間性等】 ・主体的に身近なものを見つめ、感じ取った特徴をもとにして創造活動に取り組もうとしている。	・指導事項 ○遠近法の原理の学習 ○色鉛筆によるデッサン（質感・立体感・形） ・教材 ○色鉛筆、消しゴム、画用紙、参考作品 ・書画カメラ	○			【知識及び技能】 ・意図に応じて材料や用具の特性を生かすとともに、色や質感などの表現を工夫し、主題を追求しあわわすことができている。 【思考力、判断力、表現力等】 ・身近なものを見つめ、主題を生成し、形や色、構図、材料や用具の特性などについて考え表現の構想を練ることができている。 【学びに向かう力、人間性等】 ・主体的に身近なものを見つめ、感じ取った特徴をもとにして創造活動に取り組むことができている。	○	○	○	14	
	B 題材 色や形で感情を表現しよう (原始絵画の技法) 【知識及び技能】 ・原始絵画についての各技法についての知識・理解を深める。 ・意図に応じて材料や用具の特性を生かすとともに、色や形態などの表現を工夫し主題を追求して創造的にあわわしている。 【思考力、判断力、表現力等】 ・自分の思いや感情から主題を生成し、形や色、構図、材料や用具の特性などについて考え、創造的な表現の構想を練っている。 【学びに向かう力、人間性等】 ・主体的に、自分の思いや感情などをもとにした表現の創作活動に取り組もうとしている。 ・主体的に、他者の作品のよさや意図を感じ取り、言語化しようとしている。	・指導事項 ○原始絵画の各技法の演習（吹付け、ステンシル、線刻、型押し、筆描き、タンポ描き） ・教材 ○鉛筆、消しゴム、画用紙、参考作品、アクリルガッシュ、クレヨン、のり等描画用具、土、木炭 ・書画カメラ	○		○	【知識及び技能】 ・原始絵画についての各技法についての知識・理解を深めることができている。 ・意図に応じて材料や用具の特性を生かすとともに、色や形態などの表現を工夫し主題を追求して創造的にあわわすことができている。 【思考力、判断力、表現力等】 ・自分の思いや感情から主題を生成し、形や色、構図、材料や用具の特性などについて考え、創造的な表現の構想を練ることができている。 【学びに向かう力、人間性等】 ・主体的に、自分の思いや感情などをもとにした表現の創作活動に取り組んでいる。 ・主体的に、他者の作品のよさや意図を感じ取り、言語化することができている。	○	○	○	13	

2 学 期	C 題材 自画像を作ろう (塑像) 【知識及び技能】 ・塑像及び自刻像について、その成り立ちや歴史を知り、その表現を理解する。 ・意図に応じて材料や用具を選択し、その特性を生かすとともに、主題を追求して創造的にあらわす。 【思考力、判断力、表現力等】 ・感じ取ったことや考えたことから主題を生成し、単純化や省略、強調、材料の質感や量感を生かした表現などについて考え、創造的な表現の構想を練っている。 【学びに向かう力、人間性等】 ・主体的に対象を見つめ、感じ取ったことや考えたことをもとにした表現活動に取り組もうとしている。	・指導事項 ○自刻像の制作 ○自分の顔及び頭部のスケッチ ・教材 ○鉛筆、消しゴム、参考作品、鏡、粘土、芯材など ・書画カメラ	○			【知識及び技能】 ・塑像及び自刻像について、その成り立ちや歴史を知り、その表現を理解している。 ・意図に応じて材料や用具を選択し、その特性を生かすとともに、主題を追求して創造的にあらわすことができる。 【思考力、判断力、表現力等】 ・感じ取ったことや考えたことから主題を生成し、単純化や省略、強調、材料の質感や量感を生かした表現などについて考え、創造的な表現の構想を練ることができる。 【学びに向かう力、人間性等】 ・主体的に対象を見つめ、感じ取ったことや考えたことをもとにした表現活動に取り組んでいる。	○	○	○	19
	D 題材 LINEスタンプをつくろう (デザイン) 【知識及び技能】 ・LINEスタンプについて成り立ちを知り、その効果を理解する。 ・形や色などが感情にもたらす効果や、全体のイメージや造形的な特徴・作風などでデザインを捉えることを理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 ・伝える情報の内容や相手などから主題を生成し、単純化や省略、強調などの効果やわかりやすさと美しさの調和などについて考え、創造的な表現の構想を練っている。 【学びに向かう力、人間性等】 ・主体的に誰に何を伝えるかを考え、わかりやすく効果的なデザインを工夫する表現の創造活動に取り組もうとしている。 ・主体的に、他者の作品のよさや意図を感じ取り、言語化しようとしている。	・指導事項 ○LINEスタンプのデザイン ・教材 ○鉛筆、消しゴム、参考作品、画用紙、ペン、色鉛筆など ・書画カメラ	○	○		【知識及び技能】 ・LINEスタンプについて成り立ちを知り、その効果を理解している。 ・形や色などが感情にもたらす効果や、全体のイメージや造形的な特徴・作風などでデザインを捉えることを理解することができる。 【思考力、判断力、表現力等】 ・伝える情報の内容や相手などから主題を生成し、単純化や省略、強調などの効果やわかりやすさと美しさの調和などについて考え、創造的な表現の構想を練ることができる。 【学びに向かう力、人間性等】 ・主体的に誰に何を伝えるかを考え、わかりやすく効果的なデザインを工夫する表現の創造活動に取り組むことができる。 ・主体的に、他者の作品のよさや意図を感じ取り、言語化することができる。	○	○	○	14
3 学 期	E 題材 有名な作品を深く理解しよう (模写) (鑑賞) 【知識及び技能】 ・グリッド転写の技法を理解し、主題を追求しあらわしている。 【思考力、判断力、表現力等】 ・模写の制作から、作者の表現意図や工夫を感じ取り、作品制作に生かしている。 ・作品の造形的なよさや美しさを感じ取るとともに、作者の生涯・心情や創造的な表現の工夫などについて考え、見方や感じ方を深める。 【学びに向かう力、人間性等】 ・主体的に作品を見つめ、感じ取った特徴をもとにして創造活動に取り組もうとしている。 ・主体的に作品のよさや美しさを感じ取り、その生涯や心情と作品との関係などについて考える鑑賞活動に取り組む。	・指導事項 ○模写の制作 ○グリッド転写 ○鑑賞 ○アクリルガッシュの使い方 ・教材 ○鉛筆、消しゴム、参考作品、アクリルガッシュ、教科書など ・書画カメラ	○	○		【知識及び技能】 ・グリッド転写の技法を理解し、主題を追求しあらわすことができる。 【思考力、判断力、表現力等】 ・模写の制作から、作者の表現意図や工夫を感じ取り、作品制作に生かすことができる。 ・作品の造形的なよさや美しさを感じ取るとともに、作者の生涯・心情や創造的な表現の工夫などについて考え、見方や感じ方を深められている。 【学びに向かう力、人間性等】 ・主体的に作品を見つめ、感じ取った特徴をもとにして創造活動に取り組むことができる。 ・主体的に作品のよさや美しさを感じ取り、その生涯や心情と作品との関係などについて考える鑑賞活動に取り組むことができる。	○	○	○	18
合 計										
78										

足立 高等学校 令和7年度（4 学年用） 教科 芸術 科目 書道Ⅰ

教 科： 芸術（書道） 科 目： 書道Ⅰ 単位数： 2 単位

対象学年組：第 4 学年 A 組～ C 組

教科担当者：（A組：入山 ）（C組：入山 ）

使用教科書：（ 光村図書 書Ⅰ ）

教科 書道Ⅰ の目標：

【知 識 及 び 技 能】芸術に関する各項目の特質について理解するとともに、意図に基づいて表現するための技能を身につけるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】創造的な表現を工夫したり、芸術のよさや美しさを深く味わったりすることができるようにする。

【学びに向かう力、人間性等】生涯にわたり芸術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う

科目 書道Ⅰ の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
書の表現の方法や形式、多様性などについて幅広く理解するとともに、書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身に付けるようにする。	書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書的美を味わったり捉えたりすることができるようにする。	主体的に書の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	表現			鑑賞	評価規準	知	思	学	配 当 時 数
			漢 仮	漢	仮						
1 学 期	A 書道の理解 【知識及び技能】 ・書道の分野 ・小・中学校の国語科書写 ・日本及び中国等の文字と書の伝統と文化 ・漢字の書体の変遷 ・各書体に特有の字形や線質の特徴 上記を理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 ・漢字の古典の価値と根拠について考え、書のよさや美しさを味わって捉えている。 【学びに向かう力、人間性等】 ・主体的に書の幅広い表現の学習活動に取り組もうとしている。 ・漢字の書体の変遷や、その背景にある歴史や文化に関心を持ち、主体的に漢字の書の幅広い鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。	○指導事項 ・小・中学校国語科書写と高等学校芸術科書道の学習の違いを確認 ・臨書・鑑賞・創作の理解 ・用具用材の理解 ・それぞれの書体の成立過程と、その歴史的背景、字形や線質の特徴を理解 ○教材 大筆、小筆、硯、文鎮、紙、墨毛氈					【知識及び技能】 ・書道の分野や書道で学習すること、小・中学校の国語科書写で学習した内容を理解できている。 ・日本及び中国等の文字と書の伝統と文化、漢字の書体の変遷、各書体に特有の字形や線質の特徴について理解できている。 【思考力、判断力、表現力等】 ・漢字の古典の価値と根拠について考え、書のよさや美しさを味わって捉えている。 【学びに向かう力、人間性等】 ・漢字の書体の変遷や、その背景にある歴史や文化に関心を持ち、主体的に漢字の書の幅広い鑑賞の学習活動に取り組むことができている。 ・主体的に書の幅広い表現の学習活動に取り組むことができている。	○		○	6
	B 唐代の楷書とその周辺 【知識及び技能】 ・楷書の古典に基づく基本的な用筆・運筆の技能、線質、字形や構成を生かした表現 ・線質、字形、構成等の要素と表現効果や風趣との関わり、日本及び中国等の文字と書の伝統と文化について上記を理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 ・楷書の古典の価値とその根拠について考え、書のよさや美しさを味わって捉えている。 【学びに向かう力、人間性等】 ・幅広い表現と鑑賞の学習活動に主体的に取り組む、書に対する感性を豊かにし、書を愛好する心情を養う。	○指導事項 書風の違いを理解させる。 ・九成宮醴泉銘 ・孔子廟堂碑 ・雁塔聖教序 ・顔氏家廟碑 方勢と円勢の違いについて ・牛橛造像記 ・鄭義下碑 ○教材 大筆、小筆、硯、文鎮、紙、墨毛氈、参考作品				○	【知識及び技能】 ・楷書の古典に基づく基本的な用筆・運筆の技能、線質、字形や構成を生かした表現を習得できている。 【思考力、判断力、表現力等】 ・楷書の古典の価値とその根拠について考え、書のよさや美しさを味わって捉えている。 【学びに向かう力、人間性等】 ・幅広い表現と鑑賞の学習活動に主体的に取り組む、書に対する感性を豊かにし、書を愛好する心情を養える。	○	○	○	10
	C 楷書の倣書 【知識及び技能】 ・用具・用材の特徴 ・表現効果とその関わり ・書体や書風 ・用筆・運筆について 上記を理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 ・漢字の古典の書体や書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成について構想し工夫する。 【学びに向かう力、人間性等】 ・主体的に対象を見つめ、古典から感じ取ったことや考えたことをもとにした表現活動に取り組もうとしている。	○指導事項 楷書を基に創作する 字書の扱い方 草稿の練り方 ○教材 大筆、小筆、硯、文鎮、紙、墨毛氈、字書				○	【知識及び技能】 ・用具・用材の特徴と表現効果との関わり、書体や書風と用筆・運筆との関わりについて理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 ・漢字の古典の書体や書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成について構想し工夫できた。 【学びに向かう力、人間性等】 ・主体的に対象を見つめ、感じ取ったことや考えたことをもとにした表現活動に取り組もうとしている。	○	○	○	11

2 学 期	D 【行書】【草書】【隸書】【篆書】の理解 【知識及び技能】 ・行書・草書・隸書・篆書の古典の書体や書風と用筆・運筆との関わりについて理解する。 ・線質、字形、構成等の要素と表現効果や風趣との関わり、日本及び中国等の文字と書の伝統と文化、各書体に特有の字形や線質の特徴を理解する。 ・行書・草書・隸書・篆書の古典に基づく基本的な用筆・運筆の技能、線質、字形や構成を生かした表現を身につける。 【思考力、判断力、表現力等】 ・行書・草書・隸書・篆書の古典の書体や書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成について構想し工夫する。 【学びに向かう力、人間性等】 ・幅広い表現と鑑賞の学習活動に主体的に取り組み、書に対する感性を豊かにし、書を愛好する心情を養う。	○指導事項 書体の違いを理解させる。 【行書】 ・蘭亭序 ・風信帖 ・三筆・三跡について 【草書】 ・真草千字文 【隸書】 ・曹全碑 【篆書】 ・泰山刻石 ○教材 大筆、小筆、硯、文鎮、紙、墨 毛氈、参考作品						○	○	○	33
	E 漢字仮名交じりの書 【知識及び技能】 ・目的や用途に即した効果的な表現、漢字と仮名の調和した線質による表現の技能を身につける。 【思考力、判断力、表現力等】 ・漢字と仮名の調和した字形、文字の大きさ、全体の構成、目的や用途に即した表現形式、意図に基づいた表現、名筆を生かした表現や現代に生きる表現について構想し工夫する。 ・創造された作品の価値とその根拠、生活や社会における書の効用について考え、書のよさや美しさを味わって捉える。 【学びに向かう力、人間性等】 ・幅広い表現と鑑賞の学習活動に主体的に取り組み、書に対する感性を豊かにし、書を愛好する心情を養う。	○指導事項 ・参考作品の臨書 ・創作 ○教材 小筆、硯、文鎮、紙、墨 毛氈、参考作品						○	○	○	7
3 学 期	F 仮名の書 【知識及び技能】 ・仮名の古筆に基づく基本的な用筆・運筆の技能、連綿と単体、線質、字形を生かした表現をするための技能を身につけている。 【思考力、判断力、表現力等】 ・仮名の古筆の書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成について構想し工夫している。 【学びに向かう力、人間性等】 ・主体的に仮名の書の幅広い表現の学習活動に取り組もうとしている。	○指導事項 ・仮名の成立や種類 ・筆使い、平仮名、変体仮名、連綿について理解させる 書風の違いを理解させる。 ・蓬萊切 ・高野切第三種 ・三色紙 構成方法の理解 ・散らし書き ・行書き ○教材 小筆、硯、文鎮、紙、墨 毛氈、参考作品						○	○	○	7
	G 創作 【知識及び技能】 ・用具・用材の特徴と表現効果との関わり、名筆や現代の書の表現と用筆・運筆との関わりについて理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 ・古典の書体や書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成について構想し工夫している。 【学びに向かう力、人間性等】 ・主体的に漢字の書の幅広い表現の学習活動に取り組もうとしている。	○指導事項 創作 ○教材 大筆、小筆、硯、文鎮、紙、墨 毛氈、参考作品、字書						○	○	○	4
										合計	78

足立高等学校 令和7年度（4学年用） 教科 商業 科目 課題研究

教 科： 商業

科 目： 課題研究

単位数： 2 単位

対象学年組：第 4 学年 C 組

教科担当者：

使用教科書：（教科書なし 使用教材 日本情報処理検定協会 プレゼンテーション ）

教科 商業 の目標：

【知識及び技能】 商業の各分野について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身につけるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】 ビジネスに関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ合理的かつ創造的に解決する力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】 職業人として必要な豊かな人間性を育み、よりよい社会の構築を目指して自ら学び、ビジネスの創造と発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

科目 情報処理 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
ソフトウェアを扱うことについて実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身につけている。	ソフトウェアを扱うことに関する課題を発見し、将来ビジネスに携わる者として創造的に解決しようとしている。	能力の向上を目指して自ら学び、効果的なプレゼンテーションの作成主体的かつ協働的に取り組もうとしている。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	学	配 当 時 数
1 学 期	身近な事例を基にプレゼンテーションとは何かを考える学習活動により、プレゼンテーションの意義と役割を理解する。 社会に必要とされるものをコンピュータを利用したプレゼンテーションの作成や活用の重要性を理解する。	パワーポイントを使用し、プレゼンテーション用の資料を作成する。 プレゼンテーション作成検定試験の練習。	【知識及び技能】プレゼンテーションの意義と重要性について考え、説明することができたか。 【思考力、判断力、表現力等】プレゼンテーションの作成についての情報収集を行い、効果的なプレゼンテーションを作成するために工夫したか。日常利用しているさまざまな情報に関心を持ち、その意義や役割を考え、理解することができたか。 【学びに向かう力、人間性等】ビジネスにおけるプレゼンテーションの役割を理解し、これを活用するための知識や技術を積極的に身につけようとする態度を持ったか。	○	○	○	10
	定期考査(通常授業)			○	○	○	1
	身近な事例を基にプレゼンテーションとは何かを考える学習活動により、プレゼンテーションの意義と役割を理解する。 社会に必要とされるものをコンピュータを利用したプレゼンテーションの作成や活用の重要性を理解する。	パワーポイントを使用し、プレゼンテーション用の資料を作成する。 プレゼンテーション作成検定試験の練習。	【知識及び技能】プレゼンテーションの意義と重要性について考え、説明することができたか。 【思考力、判断力、表現力等】プレゼンテーションの作成についての情報収集を行い、効果的なプレゼンテーションを作成するために工夫したか。日常利用しているさまざまな情報に関心を持ち、その意義や役割を考え、理解することができたか。 【学びに向かう力、人間性等】ビジネスにおけるプレゼンテーションの役割を理解し、これを活用するための知識や技術を積極的に身につけようとする態度を持ったか。	○	○	○	15
	定期考査			○	○	○	1
2 学 期	効果的に情報を伝えるためのプレゼンテーションの意義と役割を理解する。 社会に必要とされるものをコンピュータを利用したプレゼンテーションの作成や活用の重要性を理解する。	パワーポイントを使用し、プレゼンテーション用の資料を作成する。 プレゼンテーション作成検定試験の練習。	【知識及び技能】プレゼンテーションの意義と重要性について考え、説明することができたか。 【思考力、判断力、表現力等】プレゼンテーションの作成についての情報収集を行い、効果的なプレゼンテーションを作成するために工夫したか。日常利用しているさまざまな情報に関心を持ち、その意義や役割を考え、理解することができたか。 【学びに向かう力、人間性等】ビジネスにおけるプレゼンテーションの役割を理解し、これを活用するための知識や技術を積極的に身につけようとする態度を持ったか。	○	○	○	14
	定期考査(通常授業)			○	○	○	1
	効果的に情報を伝えるためのプレゼンテーションの意義と役割を理解する。 社会に必要とされるものをコンピュータを利用したプレゼンテーションの作成や活用の重要性を理解する。	パワーポイントを使用し、プレゼンテーション用の資料を作成する。 プレゼンテーション作成検定試験の練習。	【知識及び技能】プレゼンテーションの意義と重要性について考え、説明することができたか。 【思考力、判断力、表現力等】プレゼンテーションの作成についての情報収集を行い、効果的なプレゼンテーションを作成するために工夫したか。日常利用しているさまざまな情報に関心を持ち、その意義や役割を考え、理解することができたか。 【学びに向かう力、人間性等】ビジネスにおけるプレゼンテーションの役割を理解し、これを活用するための知識や技術を積極的に身につけようとする態度を持ったか。	○	○	○	17
	定期考査			○	○	○	1

3 学 期	効果的に情報を伝えるためのプレゼンテーションの意義と役割を理解する。 社会に必要とされるものをコンピュータを利用したプレゼンテーションの作成や活用の重要性を理解する。	パワーポイントを使用し、プレゼンテーション用の資料を作成する。 プレゼンテーション作成検定試験の練習。	【知識及び技能】プレゼンテーションの意義と重要性について考え、説明することができたか。 【思考力、判断力、表現力等】プレゼンテーションの作成についての情報収集を行い、効果的なプレゼンテーションを作成するために工夫したか。日常利用しているさまざまな情報に関心を持ち、その意義や役割を考え、理解することができたか。 【学びに向かう力、人間性等】ビジネスにおけるプレゼンテーションの役割を理解し、これを活用するための知識や技術を積極的に身につけようとする態度を持ったか。	○	○	○	17	
	定期考査			○	○	○	1	
								合計
								78

【学びに向かう力、人間性等】 職業人として必要な豊かな人間性を育み、よりよい社会の構築を目指して自ら学び、ビジネスの創造と発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

足立高等学校 令和7年度（4学年用） 教科 商業 科目 ソフトウェア活用

教科：商業

科目：ソフトウェア活用

単位数：3 単位

対象学年組：第4学年C組

教科担当者：

使用教科書：（実教出版 ソフトウェア活用）

教科 商業 の目標：

【知識及び技能】 商業の各分野について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身につけるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】 ビジネスに関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ合理的かつ創造的に解決する力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】 職業人として必要な豊かな人間性を育み、よりよい社会の構築を目指して自ら学び、ビジネスの創造と発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

科目 ソフトウェア活用 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
企業活動におけるソフトウェアの活用について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。	企業活動におけるソフトウェアの活用に関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。	企業活動を改善する力の向上を目指して自ら学び、企業活動におけるソフトウェアの活用主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	学	配当 時数
1 学期	第1章 企業活動とソフトウェアの活用 第2章 情報通信ネットワークの導入と運用 ・身近な事例を基にビジネスにおけるソフトウェアの活用を考える学習活動により、ソフトウェアの意義と重要性を理解する。 ・ネットワーク機器の機能や情報技術の進歩に伴う通信手段の変化について理解し、それを活用するコンピュータやプリンタをネットワークに接続するための基礎的な方法や、情報通信ネットワークのシステム障害に対処するための基本的な技術を身に付ける。	・指導項目 1. ソフトウェアの重要性 2. 情報通信ネットワークの導入と運用 3. 情報資産の保護 ・教材 プリント 端末で学んだこと的具体例を調べる。	【知識・技能】 IoT, AI, BDについて理解するとともに、関連するソフトウェア技術の活用と社会課題について、その関連性を理解できたか。 【思考・判断・表現】 ソフトウェアの意義と社会課題について、様々な社会活動と関連付けて見い出せたか。 【学びに向かう力、人間性等】 ビジネスにおけるソフトウェアの役割を理解し、これを活用するための知識や技術を積極的に身に付けようとする態度を持てたか。	○	○		21
	定期考査			○	○	○	1
	第3章 表計算ソフトウェアの活用 ・表計算ソフトウェアを通して、情報の集計と分析について理解し、様々な集計や分析方法、集計した情報から、分析結果を適切に表現する能力を身に付ける。 ・表計算ソフトウェアを通して、オペレーションズ・リサーチの基礎を理解し、目的に応じて適切な手法を活用する技術を身に付ける。 ・マクロの記録機能を用いて、手続きの自動化の考え方を理解し、基本的な技術を身に付ける。	・指導事項 1. オペレーションズ・リサーチ 2. 情報の集計と分析 3. 手続きの自動化 ・教材 プリント 端末で学んだこと的具体例を調べる。	【知識・技能】 ビジネスに関する情報の集計と分析について実務に即して理解できたか。手続きの自動化についての基本的な考え方を理解できたか。 【思考・判断・表現】 財務情報や販売情報の分析結果から、企業の経営状態や販売傾向などを理解でき、表計算ソフトウェアを活用して概略を表現できたか。 【学びに向かう力、人間性等】 財務情報や販売情報に関心を持ち、表計算ソフトウェアの機能を利用した分析実習に主体的かつ協働的に取り組めたか。	○	○	○	16
2 学期	定期考査			○	○	○	1
	第4章 データベースソフトウェアの活用 ・データベースの特徴や基本的な機能を理解する。 データベースソフトウェアを活用する・ための知識と技術について理解する。 ・フォームを用い、手続きを登録する方法を理解する。 ・データベースの構造を理解する。また、表を正規化するための手順を理解する。 ・SQLを用いた汎用的なデータベースの操作方法について理解する。	・指導事項 1. データベースの重要性 2. データベースの設計 3. データベースの作成と操作 4. 手続きの自動化 ・教材 プリント 端末で学んだこと的具体例を調べる。	【知識及び技能】 データベースの役割やリレーションシップの意味を理解している。テーブル・クエリ・フォーム・レポートの操作方法と、SQLの基本文法を理解できたか。 【思考力、判断力、表現力等】 業務の特性に合わせた、データベースの効果的な活用方法を判断でき、既存のマクロ機能やSQLの処理内容を理解することができたか。 【学びに向かう力、人間性等】 ビジネスにおけるデータベースの活用に関心を持ち、知識・技術の理解に、主体的かつ協働的に取り組めたか。	○	○	○	28
	定期考査			○	○	○	1
3 学期	第5章 業務処理用ソフトウェアの活用 ・グループウェアを活用することの利点と、グループウェアを活用して効率的に業務を行う方法について理解する。 ・販売管理ソフトウェアを活用することの利点と、販売管理ソフトウェアを活用して効率的に業務を行う方法について理解する。 ・給与計算ソフトウェアを活用することの利点と、給与計算ソフトウェアを活用して効率的に業務を行う方法について理解する。	・指導事項 1. 仕入・販売管理ソフトウェアの活用 2. 給与計算ソフトウェアの活用 3. グループウェアの活用 ・教材 プリント 端末で学んだこと的具体例を調べる。	【知識及び技能】 グループウェア・販売管理・給与管理などのソフトウェアについて、活用方法の違いを理解し、基本的な知識・技術を身につけることができたか。 【思考力、判断力、表現力等】 ビジネスにおける情報の一元管理や情報の共有の意味を理解でき、業務処理ソフトウェアを活用して、業務の効率化に役立てることができたか。 【学びに向かう力、人間性等】 ビジネスにおける情報の一元管理や情報の共有の重要性を理解し、業務処理ソフトウェアの効率的な活用方法を身につけるために、主体的かつ協働的に取り組めたか。	○	○	○	21
	定期考査			○	○	○	1
	第6章 情報システムの開発 ・情報システムの開発に関する基礎的な知識、技術について実務に即して理解するとともに、表計算ソフトウェアやデータベースソフトウェアによる情報システムの開発と関連付けて理解を深める。 ・情報システムの開発の中でのプログラミングにおいて、コンピュータに指示を出すための手順であるアルゴリズムについての基礎的な技術や、プログラミングに必要な関連する知識、技術を身に付ける。 ・表計算ソフトウェアやデータベースソフトウェアのプログラミング機能を利用した簡易な情報システムの開発を通して、企業活動の改善を科学的な根拠に基づいて、主体的かつ協働的に取り組む姿勢を身に付ける。	・指導事項 1. 表計算ソフトウェアによる情報システムの開発 2. データベースソフトウェアによる情報システムの開発 ・教材 プリント 端末で学んだこと的具体例を調べる。	【知識及び技能】 システム開発における代表的な開発モデルと開発手法について、基礎的な知識を習得している。アルゴリズムの基本を習得し身につけているか。 【思考力、判断力、表現力等】 システムの開発の手順や開発モデル、各手順の目的や開発の内容を適切に理解している。データ処理の目的に応じた基本的な処理をアルゴリズムなどに表現することができるか。 【学びに向かう力、人間性等】 システムの開発に興味を持ち、その設計や作成の方法を積極的に学ぼうとしている。ソフトウェアの特色を生かした実習に積極的に取り組み主体的かつ協働的に取り組めたか。			○	26
	定期考査			○	○	○	1
							合計 117